

大分市指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療） 指定手続要領

第1 指定・変更・更新の申請及び変更の届出の事務

1 指定・変更の申請の事務等

- (1) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号。以下「法」という。）第59条第1項の規定に基づき指定自立支援医療機関の指定を申請しようとする者からの指定自立支援医療機関指定申請書は、別紙様式により作成の上、大分市長に提出させることとする。
- (2) (1)の申請があったときは、特段の申出がない場合については、育成医療及び更生医療双方の申請があったものとして取り扱い、その場合の審査、指定等の事務については一括して行うものとする。なお、申請者が、育成医療又は更生医療いずれか単独での指定を希望している場合は、申請書にその旨を明記させることとし、申請のあった自立支援医療についてのみ審査、指定等の事務を行うものとする。
- (3) 指定自立支援医療機関の指定を受けた事項のうち、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律施行規則（平成18年厚生労働省令第19号。以下「規則」という。）第57条第1項第5号に規定する担当しようとする医療の種類を変更しようとする者（例えば、整形外科に関する医療を形成外科に関する医療に変更しようとする者）からは、別紙様式により大分市長へ提出させることとする。
- (4) 指定自立支援医療を主として担当する医師又は歯科医師又は薬剤師の変更等があった場合には、法第64条の規定により変更の届け出をするよう指導し変更後の医師、歯科医師又は薬剤師の経歴等を確認することとする。なお、指定自立支援医療を主として担当する医師又は歯科医師又は薬剤師の変更の届け出に当たっては、申請書の添付書類に準じた書類を提出させることとする。また、確認した結果が不相当と認められるときは、他の医師、歯科医師又は薬剤師に変更させる等の指導を行うこととし、これが不可能な場合には、法第68条の規定に基づく指定の取消しを検討することとする。
- (5) 大分市長は指定自立支援医療を担当する医療機関の指定等に当たっては、大分市社会福祉審議会身体障害者福祉専門分科会審査部会の意見に基づいて行うものとする。

ただし、薬局及び訪問看護ステーションの指定について、第2 審査(確認)の2(7)、(8)の指定審査基準を満たしている場合は、大分市社会福祉審議会身体障害者福祉専門分科会審査部会を経ずに、指定の決定を行うことができることとする。
- (6) 審査の結果に基づく指定（変更）に関する通知は、別紙様式により速やかに申請者へ通知するものとする。なお、指定年月日は原則として、大分市社会福祉審議会身体障害者福祉

専門分科会審査部会が開催された月の翌月初日とすること。

ただし、薬局及び訪問看護ステーションの指定については、原則として、指定の決定をした日の属する月の翌月初日とする。

(7) 指定自立支援医療機関が、その名称及び所在地その他規則第61条に定める変更を行うべき事項に変更を生じた場合は、当該指定自立支援医療機関に対し、法第64条の規定に基づき、変更の届出を別紙様式により大分市長へ提出させるものとする。

(8) 大分市長は、変更届出のあった事項について所要の確認を行ったうえで、内容に不備がある場合には適宜質問や指導を行うこととする。

2 指定の更新

(1) 法第60条第1項の規定に基づき指定自立支援医療機関の更新をしようとする者からの指定自立支援医療機関に係る指定の更新に関する申請書は、別紙様式により大分市長に提出させることとする。なお、当該更新申請書の提出の際、変更申請及び変更届出の提出漏れが確認された場合は、速やかに変更申請及び変更届出を提出させることとする。

(2) 大分市長は、所要の審査を行ったうえで、審査した結果の通知を別紙様式により速やかに更新申請者へ通知することとする。

3 その他

(1) 大分市長は、規則第60条に定めるように良質かつ適切な自立支援医療を提供するための体制整備に努めるとともに、変更届出、更新申請等の必要な手続きについて、提出漏れがないよう指定自立支援医療機関への指導を行うこととする。特に有効期間の満了を迎える指定自立支援医療機関に対しては、予め更新の意向等を確認し、更新申請の手続きが円滑に行われるよう取り組むこと。

(2) 大分市長は、指定自立支援医療機関の指定（更新を含む。）、名称及び所在地の変更、指定の辞退並びに指定の取り消しがあった場合は、法第69条の規定に基づき公示し、自立支援医療の支給認定を受けている障がい者、障がい児の保護者及びその他の関係機関等に対して、ホームページや広報を通じて広く周知すること。

第2 審査（確認）

審査（確認）については、次に掲げる事項を満たしているかどうかを判断するものとする。

1 指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）療養担当規程（平成18年厚生労働省告示第65号。以下「療担規程」という。）に基づき、懇切丁寧な自立支援医療が行える医療機関又は事業所であり、かつ、病院及び診療所にあつては、原則として現に自立支援

医療の対象となる身体障害の治療を行っていること。

2 患者やその家族の要望に応じて、各種医療・福祉制度の紹介や説明、カウンセリングの実施等が行えるスタッフについて体制が整備されていること。

また、病院及び診療所にあつては、自立支援医療を行うため、担当しようとする医療の種類について、その診断及び治療を行うに当たって、十分な医療スタッフ等の体制及び医療機器等の設備を有しており、適切な標榜科が示されていること。なお、特に必要とされる体制及び設備は次のとおりであること。

- (1) 心臓脈管外科に関する医療を担当する医療機関にあつては、心血管連続撮影装置及び心臓カテーテルの設備を有していること。
- (2) 心臓移植に関する医療を担当する医療機関にあつては、移植関係学会合同委員会において、心臓移植実施施設として選定された施設であること。
なお、心臓移植術後の抗免疫療法を担当する医療機関にあつては、心臓移植術実施施設又は心臓移植後の抗免疫療法の実績を有する施設との連携により心臓移植術後の抗免疫療法を実施できる体制及び設備を有している施設であること。
- (3) 腎臓に関する医療を担当する医療機関にあつては、血液浄化療法に関する機器及び専用のスペースを有していること。
- (4) 腎移植に関する医療を担当する医療機関にあつては、腎移植に必要な関連機器と血液浄化装置（機器）を備えていること。
- (5) 肝臓移植に関する医療を担当する医療機関にあつては、移植関係学会合同委員会において、肝臓移植実施施設として選定された施設であること又は「特掲診療料の施設基準等」（平成20年厚生労働省告示第63号）で定める生体部分肝移植術に関する施設基準を満たしている施設であること。なお、肝臓移植術後の抗免疫療法を担当する医療機関にあつては、肝臓移植術実施施設又は肝臓移植後の抗免疫療法の実績を有する施設との連携により肝臓移植術後の抗免疫療法を実施できる体制及び設備を有している施設であること。
- (6) 免疫に関する医療を担当する医療機関にあつては、各診療科医師の連携により総合的なHIV感染に関する診療の実施ができる体制及び設備であること。
- (7) 薬局にあつては、複数の医療機関からの処方せんを受け付けている保険薬局であり、かつ、十分な調剤実務経験のある管理薬剤師を有していること。また、通路、待合室など、身体障害に配慮した設備構造等が確保されているとともに、指定について大分県薬剤師会の推薦を得ていること。

なお、新規開局する保険薬局にあつては、当該薬局における管理者（管理薬剤師）が過去に他の指定自立支援医療機関において、管理者（管理薬剤師）としての経験を有している実績があり、かつ、当該薬局に十分な調剤実務経験のある薬剤師を有していること。また、通路、待合室など、身体障害に配慮した設備構造等が確保されているとともに、指定について大分県薬剤師会の推薦を得ていること。

- (8) 健康保険法（大正11年法律第70号）第88条第1項に規定する指定訪問看護事業者又は介護保険法（平成9年法律第123号）第41条第1項に規定する指定居宅サービス事業者（同法第8条第4項に規定する訪問看護を行う者に限る。）にあつては、原則として現に育成医療又は更生医療の対象となる訪問看護等を行っており、かつ、療担規程に基づき、適切な訪問看護等が行える事業所であること。また、そのために、必要な職員を配置していること。
- 3 病院及び診療所にあつては、指定自立支援医療を主として担当する医師又は歯科医師が、次に掲げる要件を満たしていること。

- (1) 当該指定自立支援医療機関における常勤の医師又は歯科医師であること。
- (2) それぞれの医療の種類の種類につき、適切な医療機関における研究、診療従事年数が、医籍又は歯科医籍登録後、通算して5年以上あること。適切な医療機関とは、大学専門教室（大学院を含む。）、医師法（昭和23年法律第201号）第16条の2第1項の規定に基づく臨床研修指定病院又はそれぞれの医療の分野における関係学会の規約、規則等に基づく教育病院、教育関連病院等を指すものであること。
- (3) 中枢神経、心臓移植、腎臓、腎移植、小腸、肝臓移植及び歯科矯正に関する医療を主として担当する医師又は歯科医師にあつては、(1)及び(2)に掲げる要件のほか、次の事項についても審査すること。

ア 中枢神経に関する医療

これまでの研究・診療経験と、育成医療又は更生医療で対象としている医療内容に関連性が認められるものであること。

イ 心臓移植に関する医療

心臓移植関連学会協議会・施設認定審議会の施設認定基準における心臓移植経験者であること。

なお、心臓移植術後の抗免疫療法については、臨床実績を有する者又は心臓移植術経験者など十分な臨床実績を有する者との連携を確保できる者であること。

ウ 腎臓に関する医療

血液浄化療法に関する臨床実績が1年以上あること。

エ 腎移植に関する医療

腎移植に関する臨床実績が3例以上あること。

オ 小腸に関する医療

中心静脈栄養法について20例以上、経腸栄養法について10例以上の臨床経験を有していること。

カ 肝臓移植に関する医療

生体部分肝移植術又は同種死体肝移植術に関する臨床実績が3例以上あること。
なお、肝臓移植術後の抗免疫療法については、臨床実績を有する者又は肝臓移植術経験者など十分な臨床実績を有する者との連携を確保できる者であること。

キ 歯科矯正に関する医療

これまでの研究内容と口蓋裂の歯科矯正の臨床内容とに関連が認められ、かつ、5例以上の経験を有していること。

第3 その他

- 1 法第66条の規定により市長が認めた場合、指定自立支援医療機関等に対して報告等を求めることができる。

第4 指定自立支援医療機関の指定申請書等の記載要領

別表のとおりとする。

附 則

- 1 この要領は平成22年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要領は平成24年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この要領は平成25年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この要領は平成28年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この要領は平成30年6月1日から適用する。

附 則

- 1 この要領は平成30年10月1日から適用する。

様式 1 - (1)

指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）指定（変更）申請書
（病院又は診療所）

保険医療機関	名 称			
	所 在 地	電話番号		
開 設 者	住 所			
	氏名又は名称			
標榜している診療科目				
担当しようとする医療の種類				
主として担当する医師又は 歯科医師の経歴		(別紙1)	自立支援医療を行うため に必要な体制及び設備の 概要	(別紙2)
自立支援医療を行うための入院設備の 定員		人		
<p>上記のとおり、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (平成17年法律第123号)第59条第1項の規定による指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療)として指定(変更)されたく申請する。</p> <p>年 月 日</p> <p>開 設 者 住 所 氏名又は名称</p> <p>大分市長 殿</p> <p style="text-align: right;">印</p>				

※ 育成医療又は更生医療いずれか単独での指定を希望する場合は、様式中の「(育成医療・更生医療)」のうち、指定を希望しない医療部分を二重線で消去すること。

※ 誓約書を添付すること。

経 歴 書

学 位		氏 名	印	生年月日	
現 住 所					
関係学会 加入状況					
年 月 日	任 免 事 項	師事した指導者の氏名、学位論文名又は学会に提出した論文名			

注 最終学歴より現在に至るまでを詳細に記載すること。

特に、専攻名、医師免許取得後その担当する自立支援医療の種類について研修した機関名（大学、病院等）及びその期間、師事した指導者の氏名並びに学位論文又は学会に提出した論文で本医療の診療科目に関連のあるものがあればその主たるものについて論文名、提出年月日に記載すること。

自立支援医療を行うために必要な体制及び設備の概要

	品 目	数 量	品 目	数 量
設 備 (主要なもの)				
体 制				

注 各医療を行うために必要な設備及び体制を記載すること。

研究内容に関する証明書

氏名
医療機関名
印

1 研究テーマ

2 研究の内容別期間等

(1) 教室における臨床実習

自 年 月 日 } 月間 (1 週 日 時間)
至 年 月 日 }

(2) 教授指導下での教室外における臨床実習

自 年 月 日 } 月間 (1 週 日 時間)
至 年 月 日 }

3 その他研究の内容を明らかにするために必要な事項

主論文

副論文

上記のとおり相違ないことを証明する。

平成 年 月 日

大学名
氏名
印

研究内容に関する証明書 (記載例)

印

医療機関名 市立 ○○ 病院
氏 名 ΔΔ Δ

1 研究テーマ 変形性膝関節症の組織学的研究

2 研究の内容別期間等

(1)教室における臨床実習

自 平成○年 1 月 1 日
至 平成○年 6 月 30 日 } 6 月間 (1 週 6 日 4 4 時間)

(2)教授指導下での教室外における臨床実習

自 平成○年 7 月 1 日
至 平成○年 5 月 31 日 } 1 1 月間 (1 週 6 日 4 4 時間)

3 その他の研究内容を明らかにするために必要な事項

主論文 変形性膝関節症の組織学的研究

副論文 脊髄硬膜外肉芽腫の 1 治療例
小児に発生した pancoast 腫瘍の 1 例
足関節固定術の経過的観察

上記のとおり相違ないことを証明する。

○○年○○月○○日

大学名 ○○大学医学部教授
氏 名 ΔΔ Δ 印

人工透析に関する専門研修・臨床実績証明書

医療機関名
印

氏 名

1 専門研修

(1) 研修期間

自 年 月 日
至 年 月 日

(2) 医療機関及び指導医

2 臨床実績

期 間	患者数	回 数	医 療 機 関 名 等
年 月～ 年 月	人	回	
年 月～ 年 月			
年 月～ 年 月			
年 月～ 年 月			
年 月～ 年 月			

3 透析療法従事職員研修受講の有無

- (1) 有 (年度研修)
(2) 無

上記の通り相違ないことを証明する。
平成 年 月 日

大学名 (医療機関名)
氏名

印

中心静脈栄養法等に関する臨床実績証明書

医療機関名		主たる担当医師名	
医療機関名	期間	症例数	備考
病院	年月日 ~ 年月日 ~	中心静脈栄養法 ()	
病院	~	()	
病院	~	()	
病院	年月日 ~ 年月日 ~	経腸栄養法	
病院	~		
病院	~		

上記のとおり相違ないことを証明する。

平成 年 月 日

医療機関名
氏名

印

(記載要領)

- 「医療機関名」欄には、正式名称を記載すること。
- 「主たる担当医師名」欄には、小腸に関する医療を主として担当する医師の氏名を記載すること。
- 症例数を記入する欄には個々の症例を直近時から遡って記載し、調査票の記入欄を満たす範囲内で症例数を計上すれば足りること。

ただし、既定の症例数（中心静脈栄養法20例以上、経腸栄養法10例以上）につ

いて、患者性別、年齢、期間等の一覧を別途添付すること。

4 中心静脈栄養法の症例数のうち、在宅中心静脈栄養法については（ ）内に再掲すること。

(1) 同一症例に対し断続的に繰り返し行った場合は、その都度、症例と数えて差し支えないこと。

(2) 中心静脈栄養法を開始した時点からその中心静脈栄養法の終了した時点までが10日間以上のものを症例として計上すること。

なお、カテーテル感染によりカテーテルを抜去し、同一日ないし翌日に再挿入した場合は1回とみなし、複数の症例として計上しないこと。

別紙6

心臓移植術後の抗免疫療法に関する臨床実績証明書（主たる医師）

医療機関名			主たる担当 医師名		
期 間		症例数	実 施 医 療 機 関 名 等		備 考
年 月～ 年 月 年 月～ 年 月 年 月～ 年 月			心臓移植後の抗免疫療法 病 院 病 院 H P		(国 名)
年 月～ 年 月 年 月～ 年 月			心臓移植術 病 院 H P		(国 名)

上記のとおり相違ないことを証明する。

平成 年 月 日

医療機関名
氏 名 印

（記載要領）

- 1 医療機関名は、正式名称を記載すること。
- 2 「主たる担当医師名」欄には、心臓移植術後の抗免疫療法に関する医療を主として担当する医師の氏名を記載すること。
- 3 「期間」、「症例数」欄には、「主たる担当医師名」に記載した医師が、これまでに心臓移植術後の抗免疫療法を実施した期間を直近時から遡って記載すること。
また、移植関係学会合同委員会において、心臓移植実施施設として選定された施設で心臓移植術及び心臓移植術後の抗免疫療法に関する臨床研修等の経験がある場合は、記載しても差し支えない。
- 4 「実施医療機関名等」欄には、これまでに心臓移植術後の抗免疫療法を実施した医療機関名等を記載すること。
なお、実施した医療機関については国内に限定するものではないが、国外の医療機関を記載する際は、備考欄に国名についても記載すること。
- 5 心臓移植術の経験がある場合は、心臓移植術についても記載すること。

別紙 7

心臓移植術後の抗免疫療法に関する臨床実績証明書（連携機関の医師）

連携する 医療機関		連携する 医師名	
期 間	症例数	実 施 医 療 機 関 名 等	備 考
年 月～ 年 月 年 月～ 年 月		心臓移植術 病 院 H P	(国 名)
年 月～ 年 月 年 月～ 年 月		心臓移植術後の抗免疫療法 病 院 H P	(国 名)
連携する医師の経歴書	生年月日		学位
年月日	任免事項	指示した指導者名，学位論文名又は学会論文名	

上記のとおり相違ないことを証明する。

平成 年 月 日

医療機関名
氏 名 印

（記載要領）

- 1 医療機関名は，正式名称を記載すること。
- 2 「連携する医師名」欄には，心臓移植術後の抗免疫療法に関する医療について連携する医師の氏名を記載すること。
- 3 「期間」，「症例数」，「実施医療機関名等」欄には，「連携する医師名」に記載した医師が，これまでに心臓移植術又は心臓移植術後の抗免疫療法を実施した実績を直近時から遡って記載すること。
なお，実施した医療機関については国内に限定するものではないが，国外の医療機関を記載する際は，備考欄に国名についても記載すること。

肝臓移植術後の抗免疫療法に関する臨床実績証明書（主たる医師）

医療機関名		主たる担当 医 師 名	
期間	症例数	実施医療機関名等	備 考
年月～年月 年月～年月 年月～年月		肝臓移植後の抗免疫療法 病院 病院 HP	(国 名)
年月～年月 年月～年月		肝臓移植術 病院 HP	(国 名)

上記のとおり相違ないことを証明する。

年 月 日

医療機関名
氏 名

印

(記載要領)

- 1 医療機関名は、正式名称を記載すること。
- 2 「主たる担当医師名」欄には、肝臓移植術後の抗免疫療法に関する医療を主として担当する医師の氏名を記載すること。
- 3 「期間」、「症例数」欄には、「主たる担当医師名」に記載した医師が、これまでに肝臓移植術後の抗免疫療法を実施した期間を直近時から遡って記載すること。
また、移植関係学会合同委員会において、肝臓移植実施施設として選定された施設で肝臓移植術及び肝臓移植術後の抗免疫療法に関する臨床研修等の経験がある場合は、記載しても差し支えない。
- 4 「実施医療機関名等」欄には、これまでに肝臓移植術後の抗免疫療法を実施した医療機関名等を記載すること。
なお、実施した医療機関については国内に限定するものではないが、国外の医療機関を記載する際は、備考欄に国名についても記載すること。
- 5 肝臓移植術の経験がある場合は、肝臓移植術についても記載すること。

肝臓移植術後の抗免疫療法に関する臨床実績証明書（連携機関の医師）

連携する 医療機関		連携する 医師名	
期間	症例数	実施医療機関名等	備考
年 月 ～ 年 月 年 月 ～ 年 月		肝臓移植術 病院 HP	(国 名)
年 月 ～ 年 月 年 月 ～ 年 月		肝臓移植術後の抗免疫療法 病院 HP	(国 名)
連携する医師の経歴書	生年月日		学位
年月日	任免事項	師事した指導者名、学位論文名又は学会論文名	

上記のとおり相違ないことを証明する。

年 月 日

医療機関名
氏名

印

(記載要領)

- 1 医療機関名は、正式名称を記載すること。
- 2 「連携する医師名」欄には、肝臓移植術後の抗免疫療法に関する医療について連携する医師の氏名を記載すること。
- 3 「期間」、「症例数」、「実施医療機関名等」欄には、「連携する医師名」に記載した医師が、これまでに肝臓移植術又は肝臓移植術後の抗免疫療法を実施した実績を直近時から遡って記載すること。

なお、実施した医療機関については国内に限定するものではないが、国外の医療機関を記載する際は、備考欄に国名についても記載すること。

指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）指定更新申請書
（病院又は診療所）

保険医療機関	名 称			
	所 在 地	電話番号		
開 設 者	住 所			
	氏名又は名称			
標榜している診療科目				
担当しようとする医療の種類				
主として担当する医師又は 歯科医師の氏名			自立支援医療を行う ために必要な体制及び 設備の変更の有無	有 ・ 無
自立支援医療を行うための入院設備の 定員		人		
<p>上記のとおり、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第60条第1項の規定による指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）として指定を更新されたく申請する。</p> <p style="text-align: center;">年 月 日</p> <p style="text-align: center;">開 設 者 住 所 氏名又は名称</p> <p style="text-align: right;">印</p> <p>大分市長 殿</p>				

※ 育成医療又は更生医療いずれか単独での指定の更新を希望する場合は、様式中の「（育成医療・更生医療）」のうち、指定の更新を希望しない医療部分を二重線で消去すること。

※ 誓約書を添付すること。

※ 既に指定を受けている内容に変更があった場合は、更新申請書等とあわせて変更の届出等を行うこと。

様式1－(2)

指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）指定（変更）申請書
（薬局）

保険薬局	名 称			
	所 在 地	電話番号		
開 設 者	住 所			
	氏名又は名称			
薬 剤 師 の 氏 名			略歴	(別紙1)
調 剤 の た め に 必 要 な 設 備 及 び 施 設 の 概 要			(別紙2)	
上記のとおり、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第59条第1項の規定による指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）として指定（変更）されたく申請する。				
年 月 日				
開設者 住 所 氏名又は名称 印				
大分市長 殿				

※ 育成医療又は更生医療いずれか単独での指定を希望する場合は、様式中の「（育成医療・更生医療）」のうち、指定を希望しない医療部分を二重線で消去すること。

- (備考)
- 1 薬局開設許可証の写しを添付すること。
 - 2 大分県薬剤師会の推薦状を添付すること。
 - 3 誓約書を添付すること。

別紙1

経 歴 書

学 位		氏 名		印	生年月日	
現 住 所						
最 終 学 歴						
主 たる 職 歴						

(備考) 薬剤師免許証の写しを添付すること。

別紙 2

調剤のために必要な設備及び施設の概要

調剤室の構造		調剤室の面積	
	品 目	品 目	
主たる設備			

- (備考) 1 薬局の見取図を添付すること。
2 主たる設備の欄には、薬局等構造設備規則（昭和 36 年厚生省令第 2 号）に

掲げるもの以外のものがある場合にのみ、その主たるものを記載すること。

**指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）指定更新申請書
（薬局）**

保 険 薬 局	名 称	
	所 在 地	電話番号
開 設 者	住 所	
	氏名又は名称	
薬 剤 師 の 氏 名		
調剤のために必要な設備及び施設の変更の有無		有 ・ 無
<p>上記のとおり、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第60条第1項の規定による指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）として指定を更新されたく申請する。</p> <p style="text-align: center;">年 月 日</p> <p style="text-align: right; margin-right: 100px;">開 設 者 住 所 氏名又は名称</p> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">印</p> <p style="text-align: center;">大分市長 殿</p>		

※ 育成医療又は更生医療いずれか単独での指定を希望する場合は、様式中の「（育成医療・更生医療）」のうち、指定を希望しない医療部分を二重線で消去すること。

※ 誓約書を添付すること。

※ 既に指定を受けている内容に変更があった場合は、更新申請書等とあわせて変更の届

出等を行うこと。

様式 1-(3)

指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）指定（変更）申請書
（指定訪問看護事業者等）

指定居宅サービス事業者 ・ 指定訪問看護事業者	名 称	電話番号
	主たる事務所の所在地	
訪問看護ステーション等	名 称	電話番号
	所 在 地	
	職 員 の 定 数	(別紙)
<p>上記のとおり、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第59条第1項の規定による指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）として指定（変更）されたく申請する。</p> <p>年 月 日</p> <p>指定居宅サービス事業者 指定訪問看護事業者 所在地 名 称</p> <p>大分市長 殿</p> <p>印</p>		

※ 育成医療又は更生医療いずれか単独での指定を希望する場合は、様式中の「(育成医療・更生医療)」のうち、指定を希望しない医療部分を二重線で消去すること。

※ 誓約書を添付すること。

別紙

訪問看護ステーション等において指定訪問看護若しくは指定老人訪問看護又は指定居宅サービス(介護保険法第8条第4項に規定する訪問看護に限る。)に従事する職員の定数

職 種	定 数

(備考) 職員の定数は、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士等の職種ごとに記載

すること。

指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）指定更新申請書
（指定訪問看護事業者等）

指定居宅サービス事業者 ・ 指定訪問看護事業者	名 称	電話番号
	主たる事務所の所在地	
訪問看護ステーション等	名 称	電話番号
	所 在 地	
	職員の定数の 変更の有無	有 ・ 無
<p>上記のとおり、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第60条第1項の規定による指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）として指定を更新されたく申請する。</p> <p>年 月 日</p> <p>指定居宅サービス事業者 指定訪問看護事業者 所在地 名 称 印</p> <p>大分市長 殿</p>		

※ 育成医療又は更生医療いずれか単独での指定を希望する場合は、様式中の「（育成医療・更生医療）」のうち、指定を希望しない医療部分を二重線で消去すること。

※ 誓約書を添付すること。

※ 既に指定を受けている内容に変更があった場合は、更新申請書等とあわせて変更の届出等を行うこと。

様式 2 - (1)

(指定自立支援医療機関の指定)

番 号
年 月 日

医療機関の開設者
指定居宅サービス事業者 殿
・指定訪問看護事業者

大 分 市 長 印

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第 59 条第 1 項の
規定による指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）の指定について

年 月 日付け申請について、その内容を審査した結果、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成 17 年法律第 123 号）第 59 条第 1 項の規定により、年 月 日付けをもって指定する。

なお、この指定に当たっては、次の条件を付して次表のとおり承認されたものであるから了知されたい。

- 1 主として担当する医師、名称、所在地等障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律施行規則（平成 18 年厚生 労働省令第 19 号）第 61 条及び第 63 条に規定される内容に変更があった場合には、速やかに届け出ること。
- 2 指定自立支援医療機関療養担当規程（育成医療・更生医療）（平成 18 年厚生労働省告示第 65 号）により自立支援医療（育成医療・更生医療）の適正な実施に努めること
- 3 この指定は、6 年ごとにその更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力を失う。

名 称	担当する医療の種類	主として担当する医師の氏名 又は訪問看護ステーション等の名称
	(指定自立支援医療機関（薬局を除く。）の場合のみ記載のこと)	

様式2- (2)

(指定自立支援医療機関の指定をしないこととした場合)

番 号
年 月 日

医療機関の開設者
指定居宅サービス事業者 殿
・指定訪問看護事業者

大 分 市 長 印

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第59条第1項の規定
による指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）の指定について

年 月 日第 号をもって申請のあった標記については、申請内容を審査した
結果、指定しないこととしたので了知されたい。

名 称	医 療 の 種 類	理 由
	(指定自立支援医療機関（薬局を除く。）の場合のみ記載のこと)	

※「名称」の欄には、指定訪問看護事業者等の場合、事業者の名称及び訪問看護ステーション等の名称を記載すること。

教 示

この処分について不服があるときは、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3月以内に大分市長に対して審査請求をすることができます。

また、この処分の取消しを求める訴えは、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6月以内に大分市を被告として（市長が被告の代表者となります。）提起できることとされています。なお、審査請求をしたときは、この処分の取消しの訴えは、当該審査請求に係る裁決があったことを知った日の翌日から起算して6月以内に提起することができます。

(指定の保留)

番 号
年 月 日

医療機関の開設者
指定居宅サービス事業者 殿
・指定訪問看護事業者

大 分 市 長 印

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第59条第1項による
指定自立支援医療機関の指定（変更）について

年 月 日付け申請のあった〇〇〇〇（医療機関等名を記載）に係る標記については、指定申請の内容を審査した結果、次のような不明な点があるため指定（変更）を保留したので、次の事項に対する回答につき、よろしくお取り計らい願いたい。

名 称	不 明 な 点

※「名称」の欄には、指定訪問看護事業者等の場合、事業者の名称及び訪問看護ステーション等の名称を記載すること。

様式2- (4)

(医療の種類の変更の承認)

番 号
年 月 日

医療機関の開設者 殿

大 分 市 長 印

指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）の担当する
医療の種類の変更について

年 月 日付け申請について、その内容を審査した結果、年 月 日付けをもって承認する。

なお、この承認に当たっては、次の条件を付して次表のとおり承認されたものであるから了知されたい。

1 主として担当する医師、名称、所在地等障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律施行規則（平成18年厚生労働省令第19号）第61条又は第63条に規定される内容に変更があった場合には、速やかに届け出ること。

2 指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）療養担当規程（平成18年厚生労働省告示第65号）により自立支援医療（育成医療・更生医療）の適正な実施に努めること。

3 この指定は、6年ごとにその更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力を失う。

指定自立支援医療機関の名称	担当する医療の種類	主として担当する医師の氏名

様式2- (5)

(医療の種類の変更を承認しないこととした場合)

番 号
年 月 日

医療機関の開設者 殿

大 分 市 長 印

指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）の担当する
医療の種類の変更について

年 月 日付け申請のあった次の指定自立支援医療機関に係る標記については、
申請内容を審査した結果、承認しないこととしたので了知されたい。

指定自立支援医療機関の名称	医療の種類	理 由

教 示

この処分について不服があるときは、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3月以内に大分市長に対して審査請求をすることができます。

また、この処分の取消しを求める訴えは、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6月以内に大分市を被告として（市長が被告の代表者となります。）提起できることとされています。なお、審査請求をしたときは、この処分の取消しの訴えは、当該審査請求に係る裁決があったことを知った日の翌日から起算して6月以内に提起することができます。

様式2－(6)

(主として担当する医師の変更が適当でない場合)

番 号
年 月 日

医療機関の開設者 殿

大 分 市 長 印

指定自立支援医療を主として担当する医師変更届出について

年 月 日付で届出された標記については、内容を確認した結果、次の指定自立支援医療機関の医師は、指定自立支援医療を主として担当する医師として適当でなく、他の適当な医師に変更し、改めて担当医師の変更手続をとるか、又は当該医師が担当する医療の種類について辞退の手続をとることが必要であると思われるので、早急に所要の手続を検討されたい。

指定自立支援医療機関の名称	担当する医療の種類	医師の氏名

教 示

この処分について不服があるときは、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3月以内に大分市長に対して審査請求をすることができます。

また、この処分の取消しを求める訴えは、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6月以内に大分市を被告として（市長が被告の代表者となります。）提起できることとされています。なお、審査請求をしたときは、この処分の取消しの訴えは、当該審査請求に係る裁決があったことを知った日の翌日から起算して6月以内に提起することができます。

(指定自立支援医療機関の更新)

番 号
年 月 日

医療機関の開設者
指定居宅サービス事業者 殿
・指定訪問看護事業者

大 分 市 長 印

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第60条第1項の規定
による指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）の更新について

年 月 日付申請について、その内容を審査した結果、障害者の日常生活
及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号。以下「法」と
いう。）第60条第1項の規定により、年 月 日付をもって更新する。

なお、この更新に当たっては、次の条件を付して次表のとおり承認されたものであるか
ら了知されたい。

- 1 主として担当する医師、名称、所在地等法第64条及び障害者の日常生活及び社会生
活を総合的に支援するための法律施行規則（平成18年厚生労働省令第19号）第63
条に規定される内容に変更があった場合には、速やかに届け出ること。
- 2 法第60条の規定に基づき、平成 年 月 日までに指定の更新を受けること。
- 3 指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）療養担当規程（平成18年厚生労働省 告
示第65号）により自立支援医療（育成医療・更生医療）の適正な実施に努めること。

名 称	担当する医療の種類	主として担当する医師の氏名 又は訪問看護ステーション等の名称
	（指定自立支援医療機 関（薬局を除く。）の 場合のみ記載のこと）	

(指定自立支援医療機関の指定を更新しないこととした場合)

番 号
年 月 日

医療機関の開設者
指定居宅サービス事業者 殿
・指定訪問看護事業者

大
分 市 長 印

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第60条第1項の規定
による指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）の更新について

年 月 日第 号をもって申請のあった標記については、申請内容を審査した
結果、指定を更新しないこととしたので了知されたい。

名 称	医 療 の 種 類	理 由
	(指定自立支援医療機関（薬局を除く。）の場合のみ記載のこと)	

※「名称」の欄には、指定訪問看護事業者等の場合、事業者の名称及び訪問看護ステーション等の名称を記載すること。

教 示

この処分について不服があるときは、この処分があったことを知った日の翌日から起算して3月以内に大分市長に対して審査請求をすることができます。

また、この処分の取消しを求める訴えは、この処分があったことを知った日の翌日から起算して6月以内に大分市を被告として（市長が被告の代表者となります。）提起できることとされています。なお、審査請求をしたときは、この処分の取消しの訴えは、当該審査請求に係る裁決があったことを知った日の翌日から起算して6月以内に提起することができます。

(更新申請に関する質問)

番 号
年 月 日

医療機関の開設者
指定居宅サービス事業者 殿
・指定訪問看護事業者

大 分 市
長 印

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第60条第1項による
指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）の更新について

年 月 日付申請のあった〇〇〇〇（医療機関等名を記載）に係る標記については、更新申請の内容を審査した結果、次のような不明な点があるため更新を保留したので、次の事項に対する回答につき、よろしくお取り計らい願いたい。

名 称	不 明 な 点

※「名称」の欄には、指定訪問看護事業者等の場合、事業者の名称及び訪問看護ステーション等の名称を記載すること。

別表

記入要領

- 1 「保険医療機関」の名称は、正式名称を記載すること。
- 2 「担当しようとする医療の種類」は、次のうち希望するものを記載すること。
 - (1)眼科に関する医療
 - (2)耳鼻咽喉科に関する医療
 - (3)口腔に関する医療
 - (4)整形外科に関する医療
 - (5)形成外科に関する医療
 - (6)中枢神経に関する医療
 - (7)脳神経外科に関する医療
 - (8)心臓脈管外科に関する医療
 - (9)心臓移植に関する医療
 - (10)腎臓に関する医療
 - (11)腎移植に関する医療
 - (12)小腸に関する医療
 - (13)肝臓移植に関する医療
 - (14)歯科矯正に関する医療
 - (15)免疫に関する医療
- 3 「主として担当する医師又は歯科医師の氏名」は、医療の種類ごとに記載すること。
- 4 「自立支援医療を行うための収容設備の定員」は、医療の種類ごとに記載すること。
- 5 (別紙1) 経歴書の「学位」は、専門科目に関する学位の有無を記載すること。
- 6 (別紙1) 経歴書の「関係学会加入状況」は、加入している学会名及び学会における必要な記録を記載すること。
- 7 (別紙1) 経歴書の「任免事項」は、次の点に留意し、記載すること。
 - (1)医師免許取得時期を明記し、医師免許証の写しを添付すること。
 - (2)病院研究機関等医師又は歯科医師が勤務し又は研究等のために利用した施設については、関係した専門科目名まで必ず記載すること。
(例えば、〇〇医科大学眼科学教室又は〇〇病院眼科のように記載し、〇〇医科大学、〇〇病院のように省略しないこと。)
 - (3)勤務先における身分(例えば、医長、医員、講師、助手等)を明確に記載すること。
 - (4)非常勤職員については、1か月又は1週間あたりの勤務日数、延時間数を明確に記載すること。
 - (5)2以上の施設に兼務する等の場合は、それぞれの施設における勤務条件又は利用状況等を具体的に記入すること。
(例えば、〇〇医科大学整形外科週4日(延〇時間勤務)、〇〇病院週2日(延〇時間勤務)等)
 - (6)大学院については、専門コースを明確に記載すること。(例えば、〇〇医科大学大学院医学研究科整形外科学教室等)
- 8 (別紙1) 経歴書には、指導者氏名、研究テーマ、研究の内容別(講義の受講、臨床的研究、理論的研究、実習等)期間、従事日数(1か月又は1週間あたり)、その他研究態様を明らかにするための主任教授等による証明書(別紙3)を添付すること。
- 9 腎臓に関する医療及び小腸に関する医療を担当しようとする場合は、それぞれ(別紙4)及び(別紙5)による臨床実績等に関する証明書を経歴書に添付すること。
- 10 (別紙2) 自立支援医療を行うために必要な体制及び設備には、それぞれの医療で特に必要とされるものを主に記載すること。

- 11 心臓移植に関する医療のうち心臓移植術後の抗免疫療法を担当しようとする場合は、(別紙6)又は(別紙7)による臨床実績等に関する証明書を経歴書に添付すること。
- 12 肝臓移植に関する医療のうち肝臓移植後の抗免疫療法を担当しようとする場合は、(別紙8)又は(別紙9)による臨床実績等に関する証明書を経歴書に添付すること。
- 13 薬局について指定を受けようとする場合は、申請書に薬局開設許可証の写し、県薬剤師会の推薦状を添付するとともに、経歴書に薬剤師免許証の写しを添付すること。

(誓約書)

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第59条第3項で準用する同法第36条第3項(第1号から第3号まで及び第7号を除く)の規定に該当しない旨の誓約書

平成 年 月 日

大分市長 殿

開設者

住所

氏名又は名称

印

下記に掲げる障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第59条第3項で準用する同法第36条第3項(第1号から第3号まで及び第7号を除く)の規定に該当しないことを誓約します(役員含む)。

記

(誓約項目) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第59条第3項で準用する同法第36条第3項(第1号から第3号まで及び第7号を除く)の規定関係

- 1 第4号関係 申請者が、禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日を経過していない。
 - 2 第5号関係 申請者が、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律その他の法律(児童福祉法、医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法、医療法、身体障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、薬事法、薬剤師法、介護保険法)で定める規定により罰金の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日を経過していない。
 - 3 第6号関係 申請者が、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定により指定自立支援医療機関の指定を取り消され、その取消しの日から起算して5年を経過していない。
(1)指定を取り消された者が法人である場合 取消しの処分に係る行政手続法(平成5年法律第88号)第15条の規定による通知があった日前60日以内に法人の役員又は医療機関の管理者(以下「役員等」という。)であった者で、取消しの日から起算して5年を経過しないものを含む。
(2)指定を取り消された者が法人でない場合 取消しの処分に係る行政手続法第15条の規定による通知があった日前60日以内に当該者の管理者であった者で取消しの日から起算して5年を経過しないものを含む。
 - 4 第8号関係 申請者が、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定により指定自立支援医療機関の指定の取消しの処分に係る行政手続法第15条の規定による通知日から処分をする日又は処分をしないことを決定する日までの間に指定自立支援医療機関の指定の辞退の申出をした者(事業の廃止について相当の理由がある者を除く。)で、申出の日から起算して5年を経過していない。
 - 5 第9号関係 申請者が障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定による検査が行われた日から聴聞決定予定日までの間に指定自立支援医療機関の指定の辞退の申出をした者(指定の辞退について相当の理由がある者を除く。)で、申出の日から起算して5年を経過していない。
 - 6 第10号関係 第8号に規定する期間内に指定自立支援医療機関の指定の辞退の申出があった場合において、申請者が、第8号の通知の日前60日以内にその申出に係る法人(事業の廃止について相当の理由がある法人を除く。)の役員等又はその申出に係る法人でない者(当該事業の廃止について相当の理由がある者を除く。)の管理者であった者で、申出の日から起算して5年を経過していない。
 - 7 第11号関係 申請者が、指定の申請前5年以内に自立支援医療に関し不正又は著しく不当な行為をした。
 - 8 第12号関係 申請者が、法人で、その役員等のうちに第4号から第11号までのいずれかに該当する。
 - 9 第13号関係 申請者が、法人でない者で、その管理者が第4号から第11号までのいずれかに該当する。
-

(役員等名簿)

削除

○じん臓機能障害者に対する更生医療の給付について

(昭和五四年五月一〇日)

(社更第五六号)

(各都道府県知事・各指定都市市長あて厚生省社会局長通知)

じん臓の機能に障害を有する身体障害者(以下「じん臓機能障害者」という。)に対しては、昭和四七年より、身体障害者福祉法第一九条に規定する更生医療の給付を人工透析療法に限って適用してきたところであるが、今回、新たにじん臓移植術を当該医療給付の適用範囲に加えることとしたので、その実施にあたっては、次の事項に留意のうえ、遺憾のないよう取り扱われたい。

第一 じん臓機能障害者に対する更生医療の適用について

1 給付対象者

じん臓機能障害者のうち、保存的療法で尿毒症症状の改善ができない者であって、人工透析療法又はじん臓移植術によりじん臓機能の障害に基づく症状が軽減又は除去され、日常生活能力の回復の見込みのあるものを対象とすること。

2 更生医療の給付の範囲

じん臓機能障害者に対する人工透析療法、じん臓移植術及びこれらに伴う医療に限るものであること。

3 その他

(1) 給付の決定、その他当該医療の給付に伴う事務手続等については、昭和三三年一月二六日社発第七〇七号本職通知「更生医療の給付について」により行うものであること。ただし、じん臓機能障害者の特殊性にかんがみ、更生医療の要否の判定、給付期間等については、特別の配慮を講じられたいこと。

(2) じん臓移植術の適用については、援護の実施機関は、当該指定医療機関と密接な連携を保ち、じん臓提供者出現の際には更生医療の措置が円滑に行われるよう配慮されたいこと。

なお、移植後の障害程度等級の再認定は、慎重な判断を要するが、一般的な例を示せば、抗免疫療法を要しなくなった時点で医師の意見を求めて判断すること。

第二 じん臓機能障害者に対する更生(育成)医療を担当する医療機関の指定について

1 医療の種類

更生(育成)医療機関が担当しようとする医療の種類は、人工透析療法適用者に対する更生(育成)医療については「じん臓に関する医療」とし、じん臓移植術適用者に対する更生(育成)医療については「じん臓移植に関する医療」とすること。

2 医療機関の指定申請

「じん臓に関する医療」及び「じん臓移植に関する医療」を担当する医療機関の指定申請は、昭和二九年七月三日社発第五〇八号本職通知「身体障害者福祉法第一九条の二第一項による医療機関の指定申請について」等関係諸通知に基づき実施されたいこと。

第三 この通知の適用時期及び関係通知の改廃

1 この通知は、昭和五五年四月一日から適用すること。

2 昭和二九年七月三日社発第五〇八号本職通知「身体障害者福祉法第一九条の二第一項による医療機関の指定について」の一部を別紙のとおり改正すること。

3 昭和四七年八月二五日社更第一五三号本職通知「じん臓機能障害者に対する更生医療の給付について」は廃止すること。

別紙 略